

卒業を祝して



法学部長

ながい ながい
永井 和之 かずゆき

卒業される諸君、君たちは中央大
学法学部で学んで意義がありました
か。

君たちは法学部で学んできた。そして
今卒業という日を迎える。君たちは
既に人生で幾たびかの卒業を経験
している。そして、今後の人生におい
ても、また、幾たびかの卒業を経験
していくであろう。その中でも、中央
大学法学部の卒業は、卒業する諸君
にとって特別な意味を持つのであり
か。

この卒業に至る経緯は、一人一人
異なるし、一人一人の人生があったと
思う。その一人一人の経緯を意義あ
るものとするかどうかの答えは、諸
君が今後の人生を送る中で、出され
るものであると考えている。これから
の人生を、ここで学んだことが意義が
あるように送る人は、将来、この卒
業が意義があったと答えるであろうし、
意義がないように送る人は、意義が
なかったと答えるであろう。

ただ、この人生における意義も、
また人それぞれに異なるものである
はずである。君たちには、自分なりの
意義を見いだしてほしい。そして、ど
んな生き方の中にも、その意義を見
つけてほしい。

卒業される諸君には視野を広くも
ち、社会に至る所に人生の意義あり、
そんな気持ちで今後の人生を考えて
いてほしいと切に願うものである。

そして、いつの日か、この卒業が諸
君にとって本当に意義があったと心か
ら答えられるような、今後の人生を
見つけることを祈っている。その時に
本当に卒業おめでとうといいたい。

そして、たまには多摩キャンパスの
西の夕焼け空に、浮かび上がっていた
富士の黒いシルマートを思い出して欲
しい。そして、そんな周りの景色を眺め
る心の余裕を持って欲しい。人は
毎日の時間に追われて過しているう
ちに、いつの間にか周りの景色に見と
れることもなくなり、感性を失ってい
く。そんな日々の連続の人生を、新
たに感性豊かな人生に変えるもの、
そんなものを探してください。

さあ、大いに羽ばたこう



経済学部長

こぐち よしあき
小口 好昭

皆さん、ご卒業おめでとうござい
ます。ご父母の皆様にも、心からお
祝い申し上げます。中央大学として
経済学部での生活はいかがだったで
しょうか。想い出深い、実りある学
生生活だったことを願っております。
社会情勢や経済情勢が不安定な時期
に新しい世界に飛び出す諸君は、大
きな希望とともに不安も大きいこと
と思います。しかし、不安と期待、
弱気と強気が併存してこそ社会はう
まく機能するものだと思います。こ
れはいつの世でも同じでしょう。私
が中央大学を卒業した1970年当
時は、泥沼化したベトナム戦争、高
度経済成長に伴って激化する公害や
過疎・過密問題など、やはり大きな
社会不安を抱え終末観が漂っていま
した。それでもわれわれ戦後のベ
ビーブーム世代は、大きな希望を抱
いて新しい世界に飛び出しました。
よく、「最近の若者は・・・」と

いう不平や非難を耳にします。しか
し、長野オリンピックの興奮を思い
出してください。メダルの数は長野
の時に及ばないとしても、ソルト
レックオリンピックの興奮を思い出
してください。かつて冬季オリン
ピックで、日本がこれほどすばらし
い活躍をした時代があったでしょ
うか。シドニーオリンピックでの、本
学の女子水泳陣の活躍も記憶に新し
いところですよ。野球やサッカーでも
今や日本の若者は、世界を舞台に大
活躍です。しかも、かつてのように
悲壮感を漂わせることなく、明るく
楽しみながら。

モーターで、スキー・ジャンプで、
そしてスノーボードのハーフパイプ
で、世界中の若者が青空に思いきり
飛び出しました。皆さんも、目先の
暗さにとらわれず、どうか自信を
持って大きくジャンプしてください。
自分自身に正直に生き、そして良識
ある市民として活躍されることを期
待しています。

中央大学で築いた「財産」を活用しよう

商学部長



御船 洋
みふね ひろし

卒業生のC君とSさん、「卒業おめでと。少し心配した時期もあったけれど、こうやって、晴れの日を迎えることができ、私も本当に嬉しいです。」

中央大学での四年間はとうでしたか。いろんな出会いがあったでしょう。学問との出会い、友達や先生との出会い、インターシブやアルバイトを通じての仕事との出会い、趣味やスポーツとの出会い等々。また、学生生活の中で、面白かったこと、楽しかったこと、嬉しかったこと、悲しかったこと、辛かったこと、腹が立ったことなど、いろいろな経験をしましたね。これらすべてがこの四年間に築いた君たちの「財産」です。

C君もSさんも四月から社会人になるわけですが、これで一人前です。自分の生活は自分で面倒を見る。自分で稼いだお金で生活をする。文字通り「自立」です。自分のやりたい

ことをやりたいようにしてよろしい。ただし、やっかいことと悪いこと。判断は自分で下さなければなりません。そして、自分のしたことはすべて自分で責任を取らなければなりません。

言葉でいえば簡単ですが、おそらく、これから実際に君たちが直面し、判断を迫られる局面や状況はなかなか複雑で、どっちに進めばいいのか、どうすることが正しいのかなど、迷うことが多々出てくるだろうと思います。そんなとき中央大学で築いた「財産」を活用してください。大学で学んだ知識を総動員して考える、友人や先生に相談する、自分の経験に照らして判断する。これらは強力な味方になってくれること請け合いです。もちろん、新たな「財産」を増やすことも忘れないでください。

C君、Sさん、「活躍をお祈りします。お元気で、いずれまたお会いしましょう。」

困難な時代への門出に当たって

理工学部長



風間 重雄
かざま しげお

最近、日本全体に「構造改革」が

声高に叫ばれるなか、大学の「構造」に対する風当たりも強くなっています。

なかでも、日本の大学は入るにはむづかしいものの、いったん入ってしまう

出るのは簡単との評価が定着している

かのようですが、その点では、中央大

学理工学部は例外的な存在であると思

います。全般的に見て4年間で通常

の課程を無事に終了して卒業にまで

こぎつけられるのは8割弱です。学

科によっては6割程度のところもあり

ます。このような理工系の課程を修

めた皆さんに対する社会からの期待に

は大きなものがあります。

20世紀に於いて今世紀がさらなる科学技術の世紀となることには疑う余地はありません。そうした21世紀にあつて、理工学部の卒業生には、世界全体を視野に入れ、そして数十年先を見据えた上で、大学で学んだ科学・技術の基礎知識を基盤として、

世界平和と人類の福祉に貢献することが強くもとめられています。

皆さんは日本中が経済的な繁栄を謳歌していた「バブル経済」の時代に育ちました。そして今、大学での学

業を終えるとき、日本はたいへんな失業率に象徴されるような困難な時代に直面しています。皆さんの中にはそ

のめぐり合わせに愕然たる思いをいだき、将来に対する明るい展望を持つことができず、暗澹たる気持ちに陥つて

いるひとも多いかも知れません。しかし、そういう困難な時代であるからこ

そ、大学で学んだ基礎知識にさらに磨きをかける努力を怠らず、皆さん

の人生を皆さん自身のためだけにではなく、皆さんのすぐ隣にいてより多くの

困難に直面している不特定な人たちのために役立てるべく、これからの人

生を歩んでほしいと願っています。あらたな人生の門出に当たって、他者の

ために生きる人生こそが真に生きがいのあるものであることに静かな思いを

馳せていただきたいと思います。

自信を持ってスタート



文学部長

まつお まさひと
松尾 正人

御卒業、おめでとうございます。大学生活を終えて社会に船出される皆さんは、大いなる期待とともに一抹の不安を胸にしているのかもしれない。しかし、皆さんが大学生活で獲得した「財産」は、そのような不安を打ち消すだけの力強い糧となっているはずで。

歴史を学んでいると、明治・大正・昭和の時代を生きた人々の日記や手紙を読むことがあります。当時の人々は、戦争や経済恐慌、あるいは地域の騒動や身内の不幸に直面しました。折々の日記や手紙からは、そのような苦しみにもどのように対処し、いかに乗り越えていったのかがうかがわれます。大学などの高等教育を受けたり、身近にそのような環境を持っていた人は、概して冷静になつて自分の身の回りを考えるようです。社会や政治の方向を見極め、可能な道を模索して行く姿勢を持つ

ています。一時は激情にかられても相手の立場を考え、将来の方向を模索するバランス感覚に富んでいるように思われます。

皆さんの大学時代は、世界貿易センタービル破壊に象徴されるテロ、地球規模で深刻化した環境問題、出口の見えない経済不況など、多くの政治、社会、経済の課題が顕在化しました。それらは、いずれも無関心ではいられない問題であつたように思います。多くの書物を読み、マスコミを通じてさまざまな世界の動きに追いつき、皆さんなりにその解決策を考え、柔軟な頭脳で模索したでしょう。そのような経験は、中央大学で学んだ専門分野とともに、学生時代の貴重な「財産」で、必ず社会に出てから役立つはずで。

新しい出会いと可能性に富んだ人生を、胸を張って力強く歩んで行かれることを祈念しております。

ネヴァー・ギヴアップ精神のすすめ



総合政策学部長

はやし しゅういち
林 昇一

「ご卒業おめでとう。とは言っても手放して喜べない時代に卒業するのでですね。いろいろ納得のいかないことに直面することが多いと思いますが、どうか皆さんには、希望を捨てない人生を送っていただきたい。最近、切れるという言葉に出会うことが多いのですが、どんな時でも決して希望を失ってはいけない。投げてはいけない。それは、人生というものが希望という灯火に導かれ、その結果、ああ生きていてよかった、生まれてよかったとなるものだからなのです。人生には運がありますが、人によつてそれが早く訪れたり、逆に遅れに遅れて人生の最後になつて訪れたり様々です。遅れてきたから自分

は不幸といつことにはなりません。遅れてきた方が、いろいろ悩み、悲しみその谷の深さだけ、人生の情味が分かるというものです。いつか必ず運はだれにでも巡ってきます。そのときしっかり運を掴めるよう、気力、体力を

しっかり磨いておいて下さい。決して切れてはなりません。「ああ生まれてよかったな」と思える人生こそ、「両親が最も望んできたことなのです。それは金銭や地位で置きかえることはできません。ではどうしたら、希望を捨てないでいられるのでしょうか。

その答えは、希望の作りの方にあります。希望は、欲望ではありません。自分の外にもあるものだからです。他人に「開いてよかった」と感謝されて大成功した人がいます。こう言え、それがだれか分かれますね。中大大先輩のセラインレブ創設者、鈴木敏文さんと、「他人に尽くすこと」が、鈴木さんを日本のリーダーにしました。つまり他人に尽くすことが希望を作り、運を招き寄せるのです。希望の種は沢山あるはずで、ぜひ自分の気性にあった希望をひとつ（先輩はひとつで成功しました）探して下さい。

それでは皆さんのご成功を祈りつつ、お別れの言葉と致します。さようなら。